

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 4 区分

【発行日】平成 19 年 1 月 18 日 (2007.1.18)

【公表番号】特表 2006-508829 (P2006-508829A)

【公表日】平成 18 年 3 月 16 日 (2006.3.16)

【年通号数】公開・登録公報 2006-011

【出願番号】特願 2004-557519 (P2004-557519)

【国際特許分類】

B 3 2 B 5/00 (2006.01)

B 3 2 B 3/12 (2006.01)

B 3 2 B 5/18 (2006.01)

E 0 4 C 2/36 (2006.01)

E 0 4 H 9/14 (2006.01)

【F I】

B 3 2 B 5/00 Z

B 3 2 B 3/12 Z

B 3 2 B 5/18

E 0 4 C 2/36

E 0 4 H 9/14 F

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 11 月 21 日 (2006.11.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

順に

(a) 0.25 グラム毎立方センチメートル以下の密度を有する材料の層と、

(b) 樹脂で接合された高強度繊維を含む布の層と、

(c) 構造外装の層と

を含んでなる複合材であって、

前記接合された布層がラーメンに取り付けられ、ASTM 試験手順 E 1886 - 97 に従って 161 キロメートル (100 マイル) 毎時の速度で 33 キログラム (15 ポンド) 2 × 4 材木発射体で衝打される際、5.0 ~ 17.5 センチメートルの範囲で偏位するであろう複合材。

【請求項 2】

順に

(a) 構造外装の層と、

(b) 0.25 グラム毎立方センチメートル以下の密度を有する材料の層と、

(c) 樹脂で接合された高強度繊維を含む布の層と、

(d) 構造外装の層と

を含んでなる複合材であって、

前記接合された布層がラーメンに取り付けられ、ASTM 試験手順 E 1886 - 97 に従って 161 キロメートル (100 マイル) 毎時の速度で 33 キログラム (15 ポンド) 2 × 4 材木発射体で衝打される際、5.0 ~ 17.5 センチメートルの範囲で偏位するであろう複合材。

【請求項 3】

建造物であって、

- (a) 0.25 グラム毎立方センチメートル以下の密度を有する材料の層と、
- (b) 樹脂で接合された高強度繊維を含む布の層と、
- (c) 構造外装の層と

を含んでなる前記建造物の複合部分を有し、

前記接合された布層がラーメンに取り付けられ、ASTM 試験手順 E 1886 - 97 に従って 161 キロメートル (100 マイル) 毎時の速度で 33 キログラム (15 ポンド) 2 × 4 材木発射体で衝打される際、5.0 ~ 17.5 センチメートルの範囲で偏位するであろう建造物。

【請求項 4】

建造物であって、

- (a) 構造外装の層と、
- (b) 0.25 グラム毎立方センチメートル以下の密度を有する材料の層と、
- (c) 樹脂で接合された高強度繊維を含む布の層と、
- (d) 構造外装の層と

を含んでなる前記建造物の複合部分を有し、

前記接合された布層がラーメンに取り付けられ、ASTM 試験手順 E 1886 - 97 に従って 161 キロメートル (100 マイル) 毎時の速度で 33 キログラム (15 ポンド) 2 × 4 材木発射体で衝打される際、5.0 ~ 17.5 センチメートルの範囲で偏位するであろう建造物。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0045

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0045】

壁部分は、FEMA 規定で要求されるように発射体がそれを通過するのを阻止しなかった。

本発明の好適な実施の態様は次のとおりである。

1. 順に

- (a) 0.25 グラム毎立方センチメートル以下の密度を有する材料の層と、
- (b) 樹脂で接合された高強度繊維を含む布の層と、
- (c) 構造外装の層と

を含んでなる複合材であって、

前記接合された布層がラーメンに取り付けられ、ASTM 試験手順 E 1886 - 97 に従って 161 キロメートル (100 マイル) 毎時の速度で 33 キログラム (15 ポンド) 2 × 4 材木発射体で衝打される際、5.0 ~ 17.5 センチメートルの範囲で偏位するであろう複合材。

2. 前記偏位が 8.0 ~ 16.0 センチメートルの範囲にある上記 1 に記載の複合材。

3. 前記高強度繊維がアラミド繊維、ガラス繊維、ポリエチレン繊維、ポリビニルアルコール繊維、ポリアリレート繊維、ポリベンザゾール繊維、または炭素繊維よりなる群から選択される上記 1 に記載の複合材。

4. 前記高強度繊維がアラミドを含んでなる上記 1 に記載の複合材。

5. 前記高強度繊維がガラスである上記 1 に記載の複合材。

6. 前記第 2 層が少なくとも 0.65 センチメートル (4 分の 1 インチ) の厚さである上記 1 に記載の複合材。

7. 前記第 2 層が合板を含んでなる上記 1 に記載の複合材。

8. 層 (a) が 0.10 グラム毎立方センチメートル以下の密度を有する上記 1 に記

載の複合材。

9. 層(a)が発泡体である上記1に記載の複合材。

10. 層(a)がハニカムまたはハニカム様構造を有する上記1に記載の複合材。

11. 層(a)が硬質である上記1に記載の複合材。

12. 層(a)が軟質である上記1に記載の複合材。

13. 層(a)が補強されている上記1に記載の複合材。

14. 順に

(a) 構造外装の層と、

(b) 0.25グラム毎立方センチメートル以下の密度を有する材料の層と、

(c) 樹脂で接合された高強度繊維を含む布の層と、

(d) 構造外装の層と

を含んでなる複合材であって、

前記接合された布層がラーメンに取り付けられ、ASTM試験手順E1886-97に従って161キロメートル(100マイル)毎時の速度で33キログラム(15ポンド)2×4材木発射体で衝打される際、5.0~17.5センチメートルの範囲で偏位するであろう複合材。

15. 建造物であって、

(a) 0.25グラム毎立方センチメートル以下の密度を有する材料の層と、

(b) 樹脂で接合された高強度繊維を含む布の層と、

(c) 構造外装の層と

を含んでなる前記建造物の複合部分を有し、

前記接合された布層がラーメンに取り付けられ、ASTM試験手順E1886-97に従って161キロメートル(100マイル)毎時の速度で33キログラム(15ポンド)2×4材木発射体で衝打される際、5.0~17.5センチメートルの範囲で偏位するであろう建造物。

16. 建造物であって、

(a) 構造外装の層と、

(b) 0.25グラム毎立方センチメートル以下の密度を有する材料の層と、

(c) 樹脂で接合された高強度繊維を含む布の層と、

(d) 構造外装の層と

を含んでなる前記建造物の複合部分を有し、

前記接合された布層がラーメンに取り付けられ、ASTM試験手順E1886-97に従って161キロメートル(100マイル)毎時の速度で33キログラム(15ポンド)2×4材木発射体で衝打される際、5.0~17.5センチメートルの範囲で偏位するであろう建造物。